

2025 年度活水女子大学卒業式式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご列席くださいました保護者の皆様、お子様のご卒業、お祝い申し上げます。また、これまでの活水学院に対する様々なご支援、ご協力に対し、心から御礼申し上げます。さらに、ご多忙の中、ご列席いただいております来賓の方々にも御礼申し上げます。

こうして卒業式に臨んでいる卒業生の皆さんの胸の内には、無事に卒業を迎えた喜びと通いなれた学び舎を離れる寂しさ、また、まもなく始まる新しい環境での日々への大きな期待といくばくかの不安があるのではないかと思います。しかし、皆さんがこうして卒業式に臨んでいるというのは、決して当たり前のことではありません。思い返せば、皆さんが高校を卒業する際には、まだコロナによって様々な制限があり、例年とは異なる、いろいろと不自由な卒業式だったのではないのでしょうか。それから 4 年後、私たちは当然のようにこうして対面での卒業式に臨んでいます。コロナウィルスの感染拡大が発生する前には、感染症の世界的な拡大が長期間続き、日常生活や学校生活に大きな影響がでることを予想していた人が果たしてどれだけいたでしょうか。また、逆に、コロナによる様々な自粛が続いている時に、自分たちの大学生活がどうなるのか、懸念を抱いていた人も少なくないのではないのでしょうか。

皆さん方の中には、なぜ今さらコロナの話なのかと訝しく思う人もいるかもしれません。もちろん私もコロナのステイホームの思い出話をしたいわけではありません。私が皆さんに考えて欲しいのは、私たちが思い描いている「当たり前の日常」というものが、いかに容易く変わってしまうのかということです。再びコロナウィルスのような感染症が世界に蔓延するようなことがあるのか、あるとすれば、いつ、どんな形で発生するのか、そんなことは誰にもわかりません。これは感染症に限ったことではありません。今、私たちを取り巻く社会は、多くの人々の予想を超えるスピードで変化を続け、私たちは思いもかけない事態に直面し続けています。

AI、人工知能の発達、私たちが、まるで友人と話すかのようにコンピュータと対話することを可能にすると同時に、これまで人間が担ってきた仕事の多くを、いずれコンピュータが取って代わる可能性を示しています。世界各地では、いくつもの紛争が発生し、いずれ日本にどのような影響が及ぶのか、わかりません。日本社会の少子高齢化の進行や、外国人の増加が将来的に社会にどのような変化をもたらすのかも未知数です。

このような大きな変化に対して、私たちは、どのように向き合っていけばよいのでしょうか。皆さんが活水女子大学で学んだ知識や技術の中に、その答えがあるのでしょうか。もちろん、皆さんが学んだ知識や技術を生かして、様々な問題を切り抜けてゆくことを私は期待しています。しかし、それだけでは十分ではありません。聖書にある通り、私たちは、神様が創られたこの世界を「見極めること」などできないのです。（コヘレトの言葉 3：11）そして、新しい技術や知識が発見されるたびに、これまでに学んできた知識や技術は過去のものとなってゆくことでしょう。「知識は廃れる」（コリントの信徒への手紙一 13：8）と聖書にもある通りです。大学を離れた後も、皆さんは、それぞれが置かれた場所で、研鑽を続けなければなりません。それが「学ぶ」ということの本当の意味なのです。

それでは、大学で苦勞して学んだことは、いずれ無駄になるのでしょうか。決してそうではありません。言うまでもなく、皆さんが大学で学んだことを基礎として、新しい知識や技術を学び続けていくことはとても大切です。そのために皆さんは大学で勉学に励んだのです。しかし、より重要なことは、社会の変化を目の当たりにして、恐れるのではなく、自ら進んでその変化に対応し、新しい状況の中での自分を見つめ直し、そして、より望ましい社会を目指して変化を促す一人となろうと努めることです。

活水女子大学は、日本が世界に向かって門戸を開き、近代化への道を歩み始めた激動の明治に、基督教の精神、女子の教育、そして英語や音楽という新しい分野をもたらそうとした、一人のアメリカ人宣教師によって建てられました。多くの人が反対する中で、エリザベス・ラッセル先生は、自身の信仰と信念に基づいて、無謀とも思える挑戦を通し、多くの人材を輩出し、社会を動かしました。私はこの、困難に立ち向かい、理想へ向かって社会を動かそうとする姿勢こそが、創設以来受け継がれてきた活水の精神であると信じています。活水の歴史を振り返るならば、その歩んできた道のりは、決して平坦ではありません。しかし、様々な困難に直面する度に、活水の諸先輩方は、このラッセル先生の精神を受け継ぎ、問題に立ち向かってきました。

もちろん、私は、卒業生一人一人が、幸せな、恵まれた人生を歩むことを心から願っています。しかし、同時に、何の困難も、挫折も経験しない人生などありえないことも知っています。これからの人生でも、過去の経験からだけでは解決できないような困難に出会うことは避けられません。皆さんが、大学で学んだ知識や技術では解決できないような問題に取り組まなければならないこともきっとあるだろうと思います。そういう時にこそ、「活水の精神」を思い出してください。これこそが、皆さんが活水で学んだ、最も価値のある宝だと私は信じています。

この変化の激しい社会の中で、私たちが、「確かな明日」を期待することは難しいかもしれません。明日の世界が、日本が、長崎が、そして自分がどうなるのか、不安になることも必ずあると思います。しかし、人間の歴史は、多くの不安や困難を克服しながら進んできた歴史でもあります。今、必要とされているのは、そのような不安や困難に立ち向かう勇気ではないでしょうか。私は、皆さん一人一人が、立ち止まることなく、それぞれの目標へ向かって歩み続ける勇気を持つことを期待しています。私たちの力の源である、主なる神様は、「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ書 41：10）と言ってくださっています。皆さんが、いつまでも神様から与えられる活ける水に潤され、それぞれの夢へ向かって歩み続けられることをお祈りし、学長式辞といたします。

2026 年 3 月 13 日

活水女子大学 学長 広瀬 訓